

3. 英語文化学科専門科目

1 カリキュラムの概要

英語文化学科のカリキュラムは、「学科基礎科目」と「卒業研究関連科目」は必修科目ですが、それ以外の科目は選択必修科目あるいは選択科目です。ですから自分が興味のある科目ばかりを履修することもできますし、さらに他学科の科目も含めて異なる領域の科目をいくつも履修して、自分の関心の幅を広げることも可能です。ただし、このカリキュラムは4年次の卒業研究（卒業論文）に最終的に結実することを目標として編成されていますから、なるべく早い時期に自分の関心がどの専門領域に向かっているかを見極めることが大事なほうまでありません。

そのために「文学・文化専修」と「言語・コミュニケーション専修」という二つの「専修」が用意されています。「専修」は「コース」とは違って、強い拘束力をもつものではありません。「コース」のように入り口によって進む道が違ってくるというのではなく、入り口はひとつですが、ゴールがふたつ用意されているものと考えてください。これは、皆さんが卒業研究に向けて4年間勉強してゆくための道標のようなものです。最終的にどの専修で卒業論文を書くかによって、どの専修を修了するかが決まります。

なお、学科が用意している2専修とは別に、文学部が用意している専修として、「キリスト教学専修」を選択することもできます。「キリスト教学専修」を選択する場合でも、英語文化学科を卒業することに変わりはありませんから、学科が指定する必修科目や選択必修科目を履修して、学科卒業要件を満たさなければなりません。

2 専修の紹介

「文学・文化専修」

地域の言語文化に最も深く根ざした営みとしての文学を中心として、英語圏の文化、社会、歴史、思想などの諸領域を幅広く学びたいと思う人のための専修です。同時に、特定の地域の枠を越えて、世界を結ぶ国際言語としての英語の文化の諸相について学び、国際社会にたいする認識を深めてゆきます。また、言語文化の基層にある価値観、宗教観、倫理観などを探りながら、ジェンダー、人種、移民問題などについて考察の幅を広げてゆきます。

「言語・コミュニケーション専修」

単なる語学学習を超え、英語はもちろんのこと、母語である日本語を含め世界で話されている言語そのものに興味を抱いて、もっと深く研究したい、あるいは言語・非言語情報の伝達を通して行なわれるコミュニケーションのメカニズムについて学びたいと思う人のための専修です。言語の歴史や音声現象、単語・文の構造、会話の仕組みなど、言語をさまざまなレベルにおいて学び、社会・文化といった「ことば」を取り巻く環境にも目を向けることによって、言語コミュニケーション活動の本質を探究します。

3 科目の区分と履修上の注意

英語文化学科のカリキュラムはいくつかの区分に分類されています。そして区分ごとに必修単位や

選択必修単位が設定されています。以下、それぞれの区分について簡単に説明しながら、履修上大切なポイントを挙げてゆきます。

(1) 学科基礎科目

本学科で研究していくための基礎的な英語力を養う科目群です。すべて1、2年次に開設され、少人数クラスの科目が主体となります。どれも必修科目ですので、取りこぼしのないように気をつけて下さい。3年次に進級するためには、1年次の学科基礎科目10単位をすべて取得していることが条件となります。学科基礎科目にひとつでも履修漏れがあると、3、4年次に再履修しなければなりません。その際、3、4年次開設科目と時間割上ぶつかってしまい、受講したい科目を自由に受講できないばかりか、場合によっては4年間で卒業できないという事態も生じますので十分に注意してください。

学科基礎科目は90分の授業を二分したり、多くの科目をネイティブの教員が担当するなど、開講形態に工夫を凝らして、科目間で互いに連動した総合的な授業が展開されます。詳しくはオリエンテーションで説明されますが、そのときに配布される資料や時間割をよく参照して、間違いのないように受講して下さい。

(2) 専門講読科目

英語文化の研究は基本的に読むことを通して行ないます。このことから、「学科基礎科目」の「Reading I～IV」に加えて、「専門講読科目」を用意しています。専修ごとに「文学・文化講読」科目と「言語・コミュニケーション講読」科目が複数開設され、さらに「共通」の区分には「時事英語講読」と「Advanced Reading」が置かれています。自分が選択しようと考えている専修の科目からは2科目2単位以上を選択履修しなければなりませんし、専門講読科目全体から4科目4単位以上を必ず選択履修しなければなりません。

(3) 基礎演習科目

1年次用の演習科目ですが、2、3年次の本格的な演習に入る前の、演習入門的な性格をもつ科目です。「文学・文化基礎演習」から1科目2単位以上、「言語・コミュニケーション基礎演習」から1科目2単位以上を、必ず選択履修しなければなりません。いろいろな領域や教員との交わりを作るという意味でも、全体から3科目6単位程度を履修してみるのがよいかもしれません。

(4) 講義科目

専修ごとに複数の講義科目が開設されており、「共通」の区分には複数の「国際教養講義」と「特殊講義（集中講義）」が用意されています。

1年次に開講している概論の科目は、前期と後期の両科目を続けて履修することが効果的です。

自分が選ぶことになる専修の講義科目からは多めに選択履修しなければなりませんから、十分な注意が必要です。1、2年次には両方の「専修」と「共通」の区分から学科選択必修分を履修して（3区分を合わせて5科目10単位、もちろんそれ以上履修することが望ましい）、どの専修を選ぶかが定まった3、4年次には自分が選んだ専修の講義科目をさらに上乘せして履修する（専修ごとに設定された選択必修単位を充足させる）というのがよい履修方法でしょう。

(5) 実践英語科目

実践英語科目には、学科基礎科目で培った英語力をさらに発展させるために効果的な科目が用意されています。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能を向上させたり、さ

らには翻訳や通訳の技能を学んだりすることができます。

英語文化学科の学生は、「イングリッシュ・スキルズ」の区分から2科目2単位以上を必ず選択履修しなければなりません。

(6) 演習科目

卒業研究につながる重要な、そして本格的な演習科目です。自分が選ぼうと考えている専修の区分から、4科目8単位以上を必ず選択履修しなければなりません。2年次と3年次に開講されますから、2年次、3年次とも、それぞれ2科目4単位は必ず履修するようにしてください。また2年次では、選択する専修が定まっていない場合も少なくありません。各自の事情に応じて、2年次では、専修の異なる演習科目を履修したり、複数の教員の演習科目を履修して、選択する専修が定まった3年次には、自分が選択した専修の演習科目を重ねて履修するという方法を採用することもできます。

(7) 卒業研究関連科目

「Academic Writing I」と「Academic Writing II」は3年次の必修科目です。4年次で卒業論文を書くための準備として欠かすことのできない大切な授業です。「卒業研究演習」は4年次必修の演習科目ですが、自分が選んだ卒業研究のテーマに関連する内容の演習となります。また、「Advanced Writing」は選択科目の扱いとなっていますが、英語で卒論を書くための実践的な支援を主旨としている科目ですから、実質的にすべての学生が受講することになります。

4 卒業研究について

英語文化学科を卒業するためには、「文学・文化専修」か「言語・コミュニケーション専修」のいずれかを選んで、4年次に「卒業研究」を修得する必要があります。「卒業研究」は最終的に卒業論文という形で提出します。

卒業論文は、5,000語以上の長さの英文で書かなければなりません。自分の考えを、論旨を組み立てて正確に表現する力はもちろんのこと、かなり高度な英作文の力も求められます。

提出期限は4年次の12月15日正午（時間厳守）です。詳しくは143ページの「英語文化学科卒業規程」を参照して下さい。

5 英語文化学科の教員と専門分野

井筒 美津子 教授	言語学（語用論、談話分析、認知言語学、社会言語学）
大桃 陶子 准教授	イギリス文学、イギリス文化
岡本 晃幸 講師	アメリカ文学、アメリカ文化
木村 信一 教授	アメリカ文学、アメリカ文化
工藤 雅之 教授	英語教育、教育工学、応用言語学
對馬 康博 准教授	認知言語学（認知文法、構文文法）、英語学
英 美由紀 准教授	イギリス文学、イギリス文化
Mueller, Charles 教授	第二言語習得、英語教育
山木戸 浩子 准教授	言語学（特に形態論、役割語研究）
Redlich, Jeremy 准教授	ドイツ文学、イギリス文学

6 英語文化学科 4年間の履修の一例

	必修科目	選択必修科目	選択科目	履修上のヒント
一年	キリスト教概論 (2) 外国語 (4) Grammar I, II (1) Writing I, II (1) Oral English I, II (4) Reading I, II (2) Voice & Articulation I, II (1) Vocabulary Building I, II (1) 女性とキャリア I (1) (計 17 単位)	教養科目 (8) 基礎演習 (4 - 6 程度) 講義科目 (4 - 8 程度) (計 16 - 22 単位)	TOEFL, TOEIC 関連科目 児童英語関連科目 他学科開講科目 など	基礎演習科目の履修について：3科目6単位を目安に履修することが望ましい。
	計 32 単位以上			
二年	外国語 (4) Grammar III, IV (1) The Art of Writing I, II (2) Oral English III, IV (2) Reading III, IV (2) Strategies for Listening I, II (1) (計 12 単位)	専門講読科目 (4 程度) 両専修の講義科目 (8 程度) 国際教養講義 (2) Advanced Reading (1) 演習科目 (8 程度) (計 23 単位程度)	女性とキャリア II (1) TOEFL, TOEIC 関連科目 児童英語関連科目 特殊講義 他学科開講科目 など	演習科目の履修について：2年次には8単位程度、3年次には4単位を目安に履修することが望ましい。
	計 32 単位以上			
三年	Academic Writing I, II (2)	専門講読科目 (2 程度) 専修講義科目 (12 程度) 国際教養講義 (2) Advanced Reading (1) 演習科目 (4) English Discussion & Presentation (2)	通訳ワークショップ 児童英語関連科目 特殊講義 他学科開講科目 など	演習科目の履修について：どの専修で、どの教員の指導のもとで卒論を書くかを決めて、選択予定の専修の演習を4単位、必ず履修する。 実践英語科目の履修について：イングリッシュ・スキルズを2科目2単位、必ず履修する。
	計 32 単位以上			
四年	卒業研究演習 (4) 卒業研究 (4)	専門講読科目 (2 程度) 専修講義科目 (4 程度) 実践英語科目の中で選択必修となっている科目 (2 以上)	Advanced Writing 特殊講義 他学科開講科目 など	履修登録に当たって：卒業に必要な修得単位数の諸条件をチェックし、4年次終了時点で卒業要件が間違いなくクリアされることを確認する。
	計 28 単位以上			
4年間で計 124 単位以上				

各学年の単位数はあくまで目安の数字です。実際には与えられた数字よりも多めに履修するように心がけて下さい。